

コロナ禍における代替行事開催までの道のり

－輝鏡祭行事ゼロの危機に直面して－

指導部 佐藤 健太

1. はじめに

2020年度は新型コロナウイルス（以下、コロナ）の流行により、本校でも一斉休校や分散登校をはじめ年間指導計画や授業形態の変更、また様々な感染防止対策を余儀なくされた。いうまでもなく、特別活動・課外活動においても同様に、多くの行事、部活動、学内外のあらゆるイベントや講演会・コンテスト等が中止、延期、オンライン開催といった判断・対応を迫られ、多くの混乱や我慢、不自由を強いられる特別な1年となった。

本校では自治会活動が盛んであり、その中でも自治会行事である体育祭・文化祭・ダンスコンクールは年間3大行事として、例年大変な熱気と盛り上がりを見せる。この3大行事はまとめて輝鏡祭（ききょうさい）と呼ばれ、先輩たちが築き上げてきた長い歴史と伝統に支えられながら、今日まで大切に受け継がれている。この輝鏡祭は『自主・自律』を教育方針とするお茶高において、極めて重要な教育活動に位置づけられており、生徒主体で創り上げることに意義があり、行事を通じたプロジェクトの企画・運営で得られる成功や失敗、生徒同士の縦だけでなく横のつながりといった人間関係、リーダーシップやフォロワーシップ等を体験的に学ぶ貴重な場となっている。ところが、今年度はコロナの影響ですべての輝鏡祭行事を中止する決断が下され、生徒たちからは困惑と不満の声が相次いだ。

そんな中、一度は行事の開催を諦め、打ちひしがれていた輝鏡祭実行委員が「コロナ禍でも何か代わりとなる行事ができないか」と立ち上がる。本稿では、代替行事開催までの苦難の道のりについて振り返り、それらをまとめるとともに、コロナ禍における特別活動及び生徒の自治活動のあり方やその効果について言及したい。

2. お茶高において輝鏡祭とは

2-1. 『自主・自律』

お茶高を語る上でまず触れておかななくてはならないのは、校訓となっている『自主・自律』である。教育目標にも「自主・自律の精神を備え、他者と協働していくことのできる生徒を育てる」とあり、先述のように輝鏡祭は生徒主体で創り上げる行事として、本校の代名詞でもある自主・自律を体現する機会の1つとなっている。輝鏡祭行事を通して、生徒たちは自主・自律の精神を培い、それが教科学習や諸活動にも活かされ、生徒自身の人間形成に役立っている。これは1958年卒業生の戸田奈津子氏（翻訳家）や1989年卒業生の山崎直子氏（宇宙飛行士）らも本校の学校紹介パンフレット「卒業生からのメッセージ」において言及している。卒業後も社会の各分野

でその精神を発揮し活躍していることから、輝鏡祭が自主・自律の育成に寄与してきたのは紛れもない事実といえるだろう。

2-2. 輝鏡祭の概要とスケジュール

先述のように、輝鏡祭は5月の体育祭、9月の文化祭、10月のダンスコンクールの3つの行事を総称したものである。それぞれの行事を簡単に紹介すると、体育祭は1～3年生が蘭・菊・梅組ごとに縦割りで団を編成し、競技や応援で競い合う。4月に入ると、選手を決め、ゴールデンウィーク明けから競技・応援の練習が本格化する。朝・昼・放課後と砂まみれになり、アザを作りながら全校生徒が必死に練習に励む。3年生にとっては体育祭が行事の集大成ともいえ、その3年生がキャプテンシーを発揮し、下級生がそれについていくような構図となっている。1年生は入学したばかりでまだ右も左も分からず、2年生はクラス替え直後ということもあり、体育祭を通じてお互いの距離を縮める機会となっている。また1年生は体育祭を経験することで、お茶高の行事にける熱意とパワーを体感し、お茶高スピリッツが芽生えていく。同学年にとどまらず異学年との交流も深められるのが本行事の特徴といえる。

体育祭が終わると、すぐに文化祭の準備がスタートする（実際は、体育祭練習の裏で文化祭に向けた準備が水面下で動いている）。体育祭同様1～3年生の全校生徒が参加し、個人・クラス・部活動・委員会・有志団体と様々なグループに分かれ、各種企画や催し物で賑わいをみせる。文化祭は準備・後片付け含め4日間をかける大掛かりな行事で、本校が一般公開（公開は2日間）している唯一の行事である。そのため、外来からのお客さんも多く訪れ、生徒たちはいつも以上に張り切って取り組む様子がみられる。日頃の学習及び諸活動の成果や文化的な取り組みを展示・発表、娯楽、食販等の部門に分かれて出展・披露・販売し、お茶高生の多才な姿を垣間見ることができる。1人の生徒が複数の役割を掛け持ち、多くの出番やシフトでタイトに動いている。後夜祭は一般非公開であるが、文化祭最終日のフィナーレとして一番の盛り上がりを見せる。3大行事の中で規模・内容ともに最も大がかりな行事である。

ダンスコンクールでは1,2年生がクラス単位で創作ダンスを発表する。選曲や振り付け、衣装をすべて自分たちで考え、準備・練習に取り組む。本学舞踊科及び外部からの専門家による本格的な審査に加え、3年生も審査員として発表を鑑賞する。体育祭同様に、朝・昼・放課後、体育の授業やホームルーム等を活用して練習に励む。ダンスの苦手な生徒も皆についていこうと一生懸命練習し、クラス全員が一丸となって踊る達成感や喜びは非常に大きい。クラスの友好や絆が深まり、団結力もより一層強くなる行事である。

2-3. 輝鏡祭の企画・運営

輝鏡祭の企画・運営は主に実行委員会が担っている。3大行事それぞれに体育祭実行委員会、文化祭実行委員会、ダンスコンクール実行委員会（以下、体実、文実、ダン実）が存在し、3つの委員会を輝鏡祭実行委員会と呼んでいる。輝鏡祭実行委員会は年度初めの立ち上げの時期とダンスコンクール後、一段落ついた時期に一堂に会す

る。年度初めは顔合わせとともに輝鏡祭テーマを検討し、3学期に輝鏡祭全体の総括として、反省会を行っている。輝鏡祭テーマとは、その年の3大行事を行うにあたり、お茶高生が土台とするスローガンのようなもので、このテーマに沿って生徒たちは企画や催し物を練っていく。テーマの決定には、まず各クラスから複数の案を出してもらい、それを実行委員会で吸い上げ、話し合い、選定する。

テーマが決まると、実行委員会は係ごとに配属先を決め、それぞれの役職に就く。軸となって行事を動かしていくのは2年生で、3年生の先輩から引き継いだ資料やデータ、昨年度の反省点を反映させながら、1年生とともに行事を創っていく。時に3年生もアドバイザーとして、下級生に助言・提言を与えることがある。

本校は全校生徒が360名と小規模な学校のため、体育祭や文化祭といった大きな行事は実行委員だけでなく、3年生も含めた全校生徒がいずれかの係に属し、実行委員の指示のもと、実働にあたる仕組みとなっている。したがって、輝鏡祭ではどの生徒も表舞台でスポットライトを浴びつつ、時には裏方として行事を支え、常に忙しく動き回っているのが特徴である。

2-4. 教員のかかわり方

このような運営体制を通じて、生徒たちは自発的・主体的に行事に取り組むことで自主・自律の精神を養っていくが、それぞれの行事の係には顧問として教員が1～2名つく。教員は主に生徒たちのサポート役であり、あれやこれやと手や口を出すことはせず、基本的には見守るスタンスでいる。状況に応じて、アドバイスをしたり手を差し伸べたりすることもあるが、それも必要最小限とし、極力生徒たちで話し合わせ、問題を解決できるよう促していく。過干渉になりすぎないように、かつ放任しすぎないように、教員間でもコンセンサスを図ることで、生徒自身で自主・自律を身につけさせようとするねらいがある。

3. 輝鏡祭中止の決定から代替行事の検討に至るまで

3.1. 輝鏡祭の中止

ここからは今年度の輝鏡祭について述べていく。ご承知の通り、2020年度は全国的にコロナによってあらゆる教育活動が制限・中止といった判断が下され、生徒たちは様々な場面で自粛や我慢を強いられた。本校でも2020年3月、翌月に控えていた入学式や3年生修学旅行の中止の決定（正確には大学が中止を判断）に始まり、輝鏡祭についても体育祭は一斉休校期間とも重なり、準備期間や実施に適した時期を加味しても秋以降に開催できる余裕がなく、早々に中止が決まった。文化祭はイベントの特性上、感染リスクが高いとの判断から一斉休校明けの初日となる6月1日、生徒たちに中止が告げられた（体育祭・文化祭の中止は高校側での判断）。そして、ダンスコンクールはダンス実が一般生徒にアンケート調査を行い、その意見をもとに実行委員と顧問とで協議の上、8月中旬に開催中止の判断を下した。

こうして、130年以上の長い歴史をもつ本校において、初めて輝鏡祭が開催されな

いという前代未聞の事態となった。

3.2. 生徒の反応

すべての輝鏡祭行事が中止となったことを受けて、生徒からはため息や動揺の声が多く聞かれた。とりわけ、輝鏡祭を楽しみにしていた生徒たちにとって、そのショックは甚大だった。3年生は修学旅行に加え、高校生活最後の輝鏡祭行事に取り組むことができず、無念だったに違いない。1年生には中学時代にお茶高の文化祭を見学し、それに憧れて入学してきた生徒もおり、高校生になって行事が経験できないのは痛恨だっただろう。そして、それ以上に行事運営の中核を担う実行委員を中心とした2年生たちの落胆ぶりはさらに大きく、涙ながらに開催を懇願する生徒、何とかならないのかと詰め寄る生徒、やりきれない辛さや絶望感に打ちひしがれる生徒等、担任や指導部教員はしばらくの間、そんな不安定な生徒の対応やケアに追われることとなった。

そんな中、中止宣告から約1か月が経ち、一度は行事の開催を諦め、折れてしまった実行委員たちの心に再度火が灯る。「このまま行事のない1年では終われない。何か代わりとなるイベントを考えよう！」そう言って立ち上がり、輝鏡祭の代替行事実施に向けて動き出すこととなった。ただ、この時点ではコロナの感染状況が今度どう推移していくかも分からず、代替行事を企画したとしても確実に開催できる保証はなかった。実行委員にはそのことを承知の上、ダメ元で代替行事の企画・立案に取り掛かるよう伝え、全校生徒にも代替行事の開催は最後まで不透明であることを周知するよう指示した。

3.3. 輝鏡祭テーマの検討

そんな実施できるかできないかも分からない不安を抱えながら、本格的に実行委員会の活動がスタートしたのは8月の夏休み明け。まず、輝鏡祭テーマの検討から始めた。各クラスからテーマを募集し、複数の候補の中から「This Chance ～ピンチをチャンスに！～」に決定した。“This Chance”はディスタンスをもじったもので、コロナ禍の危機をチャンスに変えようという思いが込められたものとなった。

3.4. 代替行事の検討

テーマの次は代替行事の具体案の検討へと移る。例年であれば、文化祭が行われているはずの9月という時期に差し掛かっていた。まず、どんな内容であれば行事として成立するか、生徒に満足してもらえそうか、3つの委員会ですれぞれ素案を出し合うことにした。すると、以下のようなアイデアが出された。

- ・体育祭とダンスコンクールを一緒にして、運動系の行事を行えないか。
- ・文化祭は他校を参考に、オンライン文化祭ができないか。
- ・いっそのこと、体育祭、文化祭、ダンスコンクールを融合し、これまでにない新しい行事が考えられないか。

各HRでも代替行事の案を考えてもらい、全校で知恵を絞り出した。実行委員は何度も会合を開き、実施の時期や規模、準備や運営上の課題、感染対策等、様々な

要素をシミュレーションしながら、どのような代替行事であれば実現可能か検討を重ねた。案を出し合う中で、輝鏡祭は全校生徒参加型の行事であること、生徒主体の自治運営によることが根底にあり、限られた時間の中、自分たちの力で実現できることは何かを常に問い直しながら、模索していく姿がみられた。

これまでの3大行事の特性上、交流や発表などの機会を確保すべく、なるべく対面での実施を検討していたが、運動系の行事は季節を選ぶため、すでに秋を迎えた9月から検討を始めても実施時期が冬場になってしまうし、三密やソーシャルディスタンスを考慮すると会場の都合等、全校規模での開催は諦めるしかなかった。文化祭は規模を縮小したとしても安全面・衛生面・満足度等、様々な観点から校舎内で行うことが困難であるほか、オンライン文化祭はプログラミングスキルや予算の問題がクリアできるのかといった問題点も指摘された。加えて、いずれの行事もリアル志向のお茶高生にとって、中途半端な形で行事を実施することは本意ではないという声があがった。実行委員は従来の3大行事を縮小したり、マイナーチェンジしたりするだけでは、代替行事の開催は困難であることを認識し、さらに話し合いを重ね、方向性を絞っていった。

紆余曲折を経て、最終的に実行委員会が辿り着いた代替行事の結論は「動画コンテストと部活動発表」だった。内容はクラス単位で制作した動画の鑑賞と部活動単位での活動の成果発表を同時に行うというもので、時期は12月の期末考査後の特別授業期間に講堂を使っての実施を想定した。全校生徒が参加（3年生のみ任意参加）し、感染防止に留意しながらであれば活動可能で、かつ年度内に実施でき、それなりに満足度・達成感が期待できるといった諸条件を満たせそうなのが上記の企画だった。こうして、代替行事の方向性が決定し、内容の企画・準備に向けて始動することとなった。

4. 企画書の立案から動画の制作まで

4-1. 大学のコロナ対策室

代替行事「動画コンテストと部活動発表」を開催するために、多くの手順を踏む必要があった。コロナの流行が始まるや3月下旬には大学にコロナ対策室（以下、対策室）が設置された。大学をはじめ本学の各附属学校園が通常授業以外の教育活動を行う際には企画書を作成し、事前に対策室へ申請の上、許可を得ることが条件となった。対策室は数多くの企画書を審査するため、回答まで約1か月を要すること、対策室に教育的意義や安全性について理解を求めため、細部にわたって企画書の完成度を高める必要があった。対策室からの差し戻しによる修正等の対応を前提に、遅くとも9月中には企画書を仕上げ、提出しなければならないことを実行委員に指示し、まず企画書の作成から始めることとした。

4-2. 企画書の立案

企画書の立案に先立ち、3大行事の各委員会がどのように業務を分担するか話し合った。具体的には、体実とは部活動の発表関連、文実とはクラスの動画関連、ダン実とは当日の進行と審査・表彰関連とそれぞれの役割を明確にした。その上で、企画書の立

案を体実、文実、ダン実の各委員長が担い、顧問教員と委員生徒とのパイプ役となって詳細を詰めていった。単に、代替行事の内容について考えるだけでなく、どうすれば対策室から了承を得られるか、どのように感染防止対策を徹底していくか、教員会議で指摘された改善点や問題点を1つずつクリアしながら、あらゆる場面や状況を想定したリスクマネジメントも並行して企画書の作成が着々と進められた。本番当日の講堂の座席表も作成し、市松模様のように間隔を空けて着席することを提案した。そして、完成した企画書・座席表は教員会議を経て、9月下旬に対策室へ提出することができた(図1,2)。

4-3. 見切り発車で活動開始

対策室からの回答を待つ間、実行委員はさらに動きを加速させる。対策室の返事が来てから動き出すのでは12月の開催に間に合わないため、企画書が承認される前提で、早速1,2年生向けに代替行事の実施ならびに企画の説明を行った。企画の概要を伝え、各クラスにはグルーピングや動画制作におけるルールの確認、動画の内容及び感染防止対策の検討、審議用紙の記入を指示した。あわせて、部活動団体には発表希望の有無、発表内容と形態(対面発表または映像発表)、感染防止対策の検討を指示した。

4-4. コロナ対策室からの回答

10月中旬、対策室から企画書に対する回答があり、いくつかの遵守事項・条件等の追加が提示されたものの、概ね提出された企画書の内容で開催してよいと承諾を得ることができた。この時点で実行委員は喜びに沸いたが、まだ代替行事が開催されると決まったわけではなく、やっとスタートラインに立てたこと、感染状況次第で実施の可否は分からないことを改めて伝え、委員には代替行事の開催と成功に向けて、できる限りのことを粛々と取り組むよう指導した。それでも、実現に向けて一歩踏み出したことで生徒の活気が一気に高まっていくのを感じた。

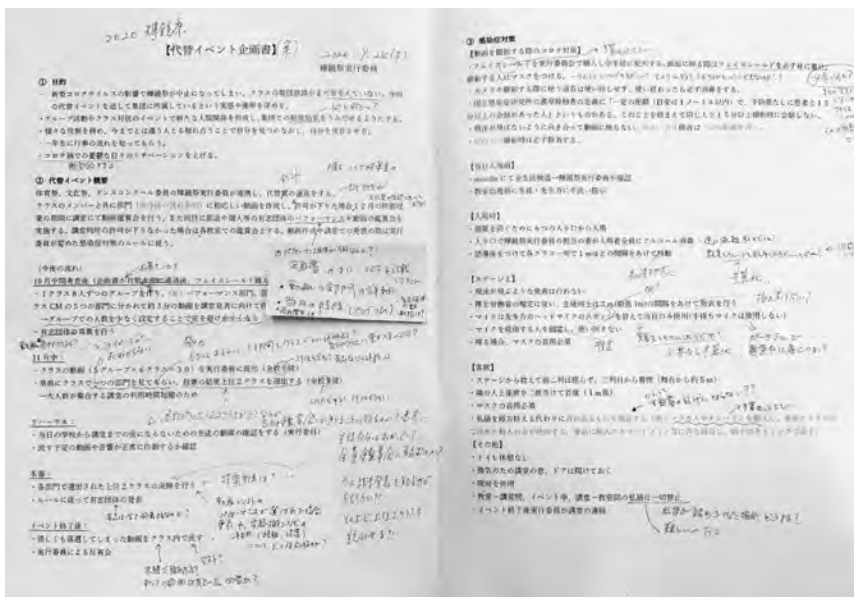


図1 修正や推敲のやりとりを重ねた企画書

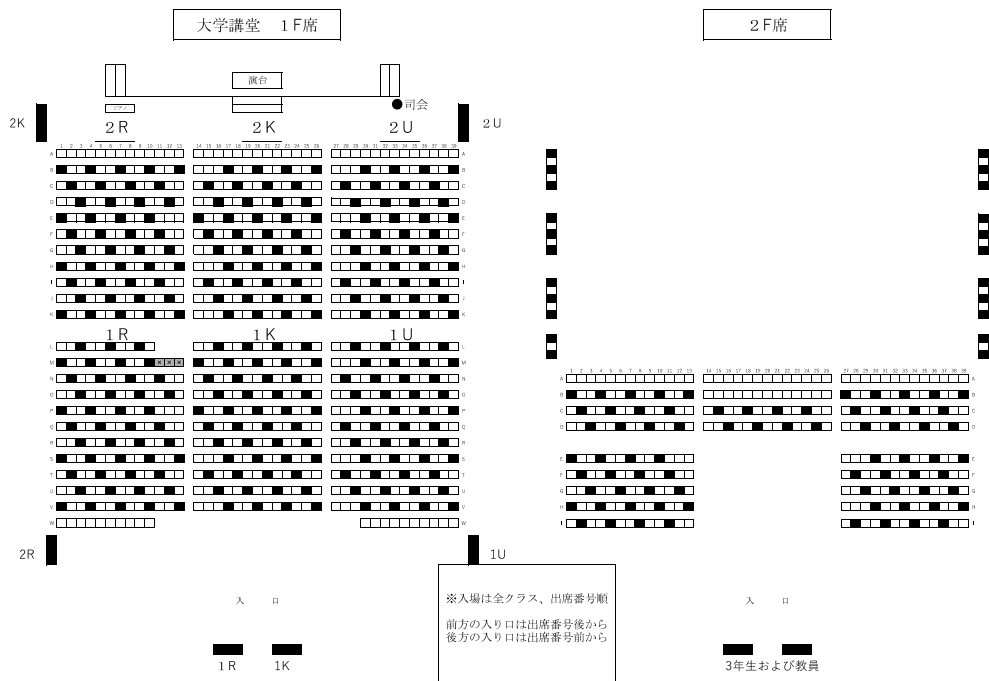


図2 市松模様配された座席図

4-5. 代替行事の名称を決定

企画書の正式承認を受けて、代替行事の名称を決めることにした。クラスに名称案を募集し、複数の候補が出された中、「だいたい輝鏡祭」に決定した。平仮名で「だいたい」としたのは、おおまかにという意味の“大体”と代わりという意味の“代替”を掛け合わせているとのことで、実行委員が最終的に選定した。

4-6. 動画制作に向けた審議

すでに見切り発車で審議に向けた準備を進めていたが、10月下旬に対策室からの指摘を反映させた正式な実施要項を生徒に告示した(図3)。生徒たちは実施要項を踏まえて審議用紙を作成・提出し、実行委員はそれをもとに審議を開始した。ここでは文実が各クラスの審議用紙を全員でチェックし、企画の趣旨に合っているか、ルールに則っているか、感染防止対策は万全か、責任者とヒアリングを行い、疑問点や改善点があればそれを確認し、修正を求めるものである。審議作業には顧問教員も同席し、質疑応答の様子を見守り、必要に応じて助言や指示を加えた(図4)。

4-7. 動画制作開始

審議による最終チェックが完了し、いよいよ動画制作が開始された。動画作品の提出締切が11月末と制作期間は約3週間というタイトなスケジュールであったが、生徒たちは昼休みや放課後を利用して、楽しそうに撮影・編集に取り組む姿がみられた。撮影機材は生徒自身のスマートフォンを使い、編集もスマートフォンのアプリや学校のパソコンを使って行っていた。ほとんどのグループにおいて、演者、カメラマ

2020年度輝鏡祭「This Chance～ピンチをチャンスに！」代替イベント企画

【だいたい輝鏡祭 実施要項】

2020.10.29(木)輝鏡祭実行委員会

1. 目的

- ① クラスの仲間と動画制作を行う中で、新たな人間関係を築き、クラスへの帰属意識を高める。
- ② 生徒による自治会行事の自主運営の流れを、一年生も把握する。
- ③ 公演など発表の機会を失った部活団体に発表の場を提供する。(3選を選びられると判断される団体のみ)

2. 日時・場所 : 12月21日(月)、1時間30分程度@大学講堂

12月18日(金)、午後 リハーサル

3. 参加人数 : 約300名(内訳:1年生120名・2年生123名・3年生鑑賞希望者・教員25名)

4. 主な内容

- 1・2年生クラス対抗動画鑑賞及びコンテスト。各クラス5グループ(1グループ8～9名)に分かれ、5作品(パフォーマンス、芸術、お笑い、やってみた、クラスCMをそれぞれ一作品ずつ)を制作する。

※動画作品:クラスCM1分30秒、その他の作品3分以内。

- 実行委員会に提出された動画(クラスCMを除く4部門×6クラス=24作品)で予選を行い、各部門の上位2作品を選出。予選の方法は、パフォーマンス部門に関わった生徒は芸術部門の上映会に参加し投票するように公平に行う。ただし、クラスCMの予選はせず、全作品を講堂で上映する。

- その後、大学講堂にて各部門の上位2作品を鑑賞し、1・2年生全員+3年生希望者で各部門の最優秀作品を投票で決める。※優勝した作品には、表彰状・賞品が授与される

5. 今後の流れ

日程	全生徒の今後の流れ
10/26(月)	審議用紙提出
11/0/28(水)	1年審議
11/0/29(木)	2年審議、1年生は審議を通過したグループから撮影可能。
10/30(金)	部活審議用紙提出
11/4(月)～	部活動審議
11/13(金)	予選配布
11/30(月)	動画提出
12/7～11(火～金)	期末考査
12/14(月)～17(木)	予選 ※予選を通過した8作品については、本番まで公表しない。
12/18(金)	リハーサル(実演する部活のみ)
12/21(月)	本番
三学期	予選で落ちてしまった他の作品を鑑賞する

※1年生は終礼や放課後を使って、2年生は本曜日7限を使って撮影、編集を進める。
※優先期間はないので、放課後を使って撮影することが可能。

6. 主なコロナ対策:

【活動全般、撮影時】

- ① 生徒は毎朝検温をし、moodleに報告をする。
 - ② 活動の前には、手洗いがいかに徹底する。
 - ③ カメラや撮影する際に使う道具は使い回しせず、使い終わったら必ず消毒をする。
 - ④ 活動中はマスク着用が基本。マスクありで向かい合って話す場合は、1m以上距離をとる。表情を読むためにマスクを外して発声する場合は、3m以上離れる。
- また、向かい合ってマスクなしで撮影したい場合は、ロバコで行い、アフレコで対応する。基本は前方を向く。
- ⑤ 室内で活動する場合は換気を行う。
 - ⑥ 狭い空間で活動しない。
 - ⑦ 基本的に会話は前を行って行う。向き合う必要がある場合は1m以上離れる。
 - ⑧ 15分以上同じ人と会話をしない。

【講堂:リハーサルと本番】

- ① 換気のため講堂の窓、ドアは開け、寒さ対策と空気の循環のため暖房を併用する。
- ② 教室→講堂前、講堂→教室間の移動の際し、事前に手洗い・アルコール消毒・トイレを済ませる。また、混雑を防ぐために講堂の6つの入り口から1クラスずつ入場。話簿係(実行委員)をつけて各クラス一列で約1mの間隔をあけて私語をせず移動させる。
- ③ 混雑を避けるためトイレ休憩はない。
- ④ 飛沫が飛ぶような発表は行わない。
- ⑤ 発表者が発表の前後に座っている人の前を通らないように、発表者用の座席スペースを設ける。
- ⑥ 客席の私語は慎む。私語を極力控える代わりに音の出るものを用意する。
(例:マラカスやタンバリンを委員会で購入し、事前にクラス内で決めた数人のみを使用する。事前に個人のスマートフォン等音声録音し、個々のタイミングで流す。
1人2本ペットボトルを持参し、歌声を上げる代わりにペットボトル同士を叩く など)
- ⑦ 司会は必要最小限にし、司会者はマスク着用の上、専用のヘッドマイクを使用する。マイク使用者を限定し、使い回さない。(教育実習生用ヘッドマイクのスポンジを替えて使用)
- ⑧ イベント終了後、実行委員が講堂の清掃・拭拭を行う。
- ⑨ 舞台上の生徒同士は1.5mの間隔をあける(厚生労働省基準)
- ⑩ 基本的にマスクは着用する。ただし、特別な事情でマスクを着用しない場合のみ実行委員に事前に伝える

これらは輝鏡祭実行委員会が8月から熟考して決めた感染症対策です。委員会の方からも発起をしてくる予定ではありますが、個人で細心の注意を払うことが最重要です。折角、今年初めての大规模なイベントを開催できるチャンスを得ることが出来たので、感染者を出さないように、また感染者にならないように、そして4度目の行事中止にならないように気を付けていきましょう。

7. 注意事項

- ①私物について
 - ・基本的に消耗品は予算で買う。
 - ・私物を持ってきたい場合は必ず私物申請用紙を提出する
 - ・衣装を使いたい場合は私物申請用紙を提出する。
 - ・道具や衣装、メイクなどの消耗品以外のものを購入をしたい場合は、企画に必ず必要であり、私物化しないための代替案後の使い道を審議用紙に明記した上で許可された場合のみ購入してよい。
 - ※企画でチョークを使う場合は学校のものではなく予算で購入する。
- ②その他
 - ・動画を引用する際は常識の範囲内で使用する。
 - ・著作権や肖像権には十分配慮する。
 - ・クラスCM以外のグループは教職員の出演を禁止。クラスCMも先生の出演は最小限にする。
 - ・撮影は大学キャンパス内で行う。

当日のスケジュールイメージ

※午後以降開催の場合

12:30	手洗い等の確認
12:50	講師が到着
13:00	代替イベント開始
14:10	代替イベント終了
14:50	生徒退席完了

図3 生徒に配布した実施要項・諸注意



図4 審議作業の様子

ン、音響、小道具、編集等、個々の適正に応じた役割を自分たちで割り振り、分業しながら取り組んでいた。

動画制作ということで、質問や相談等を情報科教員に頼ることが予想されたため、輝鏡祭が生徒主体で創る理念や公平性を保つ理由から、困ったことがあっても自分たちで解決するよう生徒には指導した。また、授業の支障にならないよう取り組むこと、教員を動画に駆り出さないことといったルールの徹底も実行委員に促した。こうして、期限までに全クラスから完成した動画が出揃った。

5. 本番まであと3週間

5-1. 予選の実施

各クラスから集約した「お笑い」・「アート」・「やってみた」・「パフォーマンス」・「クラスCM」の5部門の動画のうち、クラスCM以外の4部門は予選を行い、上位2作品を本番当日に上映することとなっていた。12月上旬に期末考査が終わると、登校日等を使って、予選を実施した(図5)。密にならないよう、生徒が動画制作で担当した部門とは違う部門の作品(1,2年生6クラス分、6作品)を体育館や広い教室で鑑賞し、投票を行った。

5-2. 感染防止対策の徹底

12月に入り、コロナ感染者数に上昇傾向の兆しがみられた。実行委員は危機感をおぼえ、全校生徒に対して学校が毎日課している検温・報告の徹底をあらためて呼びかけたほか、本番当日の講堂への入場方法についても工夫をすべく話し合った。入場時の密を回避するために、クラス単位で一旦グラウンドに整列させ、時差をつけて誘導したり、講堂入口でアルコール消毒を実施したりといった対策を施すことにした。こうして、本番までにできる限りの手を尽くし、準備を整えた。

6. 迎えた本番当日

2020年12月21日、「だいたい輝鏡祭」当日を迎えた。実行委員の手作りによるプログラム(図6)が配布され、2年生にとっては久しぶりの、1年生にとっては初めての学校行事に生徒たちの期待度も高まっていた。シミュレーションした通りに全校生徒を並ばせ、実行委員が講堂まで誘導、ディスタンスを保ちながら静粛に移動し、入口では手指消毒をして入場した。指定された座席に生徒は着席し、私語・飲食を禁止とする代わりに、鳴り物や光り物の持ち込みを可とし、行事を盛り上げるようはたらきかけた。

予選を勝ち抜いた各部門上位2作品の動画と1,2年生全クラスのクラスCM動画を鑑賞し、クラスCM以外の4部門は最優秀作品を決めるための投票を行った。その

	日程	場所	審査員
①	12/15(水) 11:45~12:10	体育館	2年 パフォーマンス部門
②	12/16(木) 11:45~12:10	体育館	2年 お笑い部門
③	12/16(木) 12:50~12:55	体育館	1年 パフォーマンス部門
④	12/16(木) 12:50~12:55	体育館	1年 お笑い部門
⑤	12/17(金) 11:45~12:10	体育館	1,2年 やってみた部門
⑥	12/17(金) 11:45~12:10	体育館	1,2年 アート部門

図5 動画予選の告示

後、部活動団体の発表を鑑賞した。今年度は部活動のコンクールや大会の中止が相次ぎ、活動の成果を披露する機会がなかったため、だいたい輝鏡祭で発表できたことは大変意義深かった。

動画を観て笑ったり、発表を視聴して和やかな雰囲気になったり、ペンライトを振って静かに盛り上がったり、同じ空間で同じ時間を共有することで、生徒たちの活き活きとした表情が戻るのを強く実感することができた。

1時間半以内で行事を終了させることが対策室からの開催条件となっていたため、会の進行も滞りなくスムーズに進められた。閉会式では実行委員長の3人が涙ながらに感謝の意を伝え、一般生徒たちからは温かい拍手が送られた。

タイムスケジュール通り、1時間半ピッタリで行事は閉会し、終了後は入場時同様にクラス単位で時差と間隔をつけながら生徒を退場させた。こうして、実行委員の尽力のもと、今年度最初で最後となる輝鏡祭行事「だいたい輝鏡祭」が無事成功の上、幕を閉じた。まさに自主・自律の精神を発揮した素晴らしい行事運営となった(図7-1～7)。

✓ check!

済ませましたか? Moodle への体温入力

済ませましたか? 手洗いはまたは手の消毒

持っていますか? 投票用紙

持っていますか? 筆記用具

できていますか? 私語厳禁

できていますか? ディスタンス

面白いときはにっこり笑顔で!

出来るだけ声を出さないように感染対策にご協力よろしくお願致します。


拍手、ペットボトルでの応援、大歓迎!

みんなで盛り上がっていきましょうーう!

できていますか? 見る準備!!!!

それでは、短い間ですが・・・

楽しみましょう!!!!!!



だいたい輝鏡祭

～This chance～

2020年12月21日 日曜日

13時10分～15時

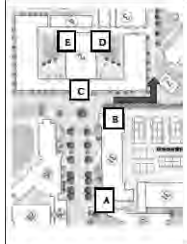
プログラム

13:10～ 開会式

動画上映	部活動
<p>13:20～ クラス CM 部門</p> <p style="padding-left: 20px;">1R・1K・1U・</p> <p style="padding-left: 20px;">2R・2K・2U</p> <p>13:30～ バフォーマンス部門</p> <p style="padding-left: 20px;">A・B</p> <p>13:36～ お笑い部門</p> <p style="padding-left: 20px;">A・B</p> <p>13:42～ アート部門</p> <p style="padding-left: 20px;">A・B</p> <p>13:48～ やってみた部門</p> <p style="padding-left: 20px;">A・B</p>	<p>14:00～ 合唱部 (4分)</p> <p style="padding-left: 20px;">箏曲部 (6分)</p> <p style="padding-left: 20px;">映画研究同好会 (2.5分)</p> <p style="padding-left: 20px;">華道部 (1分)</p> <p style="padding-left: 20px;">音楽部 (6分)</p> <p style="padding-left: 20px;">MAC 部 (8分)</p> <p style="padding-left: 20px;">☆吹奏楽部 (6分)</p> <p style="padding-left: 20px;">☆ダンス部 (7分)</p> <p style="padding-left: 20px;">☆中国武術部 (7分)</p>

※☆マークの付いたものは実演

【校舎から講堂までの行き方】 各クラスの係長が実行委員が説明します。執事室は



《各回りの規定について》

A: 執事室から出入り

B: 下駄箱から入館の出入口

C: 講堂正面直進

D: 講堂前右、左側の出入口

E: 講堂前左、右側の出入口

《各クラスの座席》

1R: A=C (正面左側座席のみ入り)

1K: A=C (正面左側座席のみ入り)


1U: B=D (2回目を座席のみ)

2R: B=E (2回目を座席のみ)

2K: A=C (正面左側座席のみ入り)

2U: B=D (2回目を座席のみ)

14:50～ 閉会式



【観覧席】

- ・Aから前座すべクラスは、プロジェクタの壁に紙面を写し見物する(一列)
- ・Bから前座すべクラスは、校舎に沿って仮設に紙面を写し見物する(一列)

・2年生は 12:40 に到着完了、点検

・1年生は 12:50 に到着完了、点検

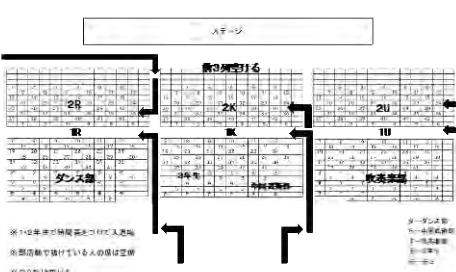


図6 配布されたプログラム



図 7-1 間隔を空けて一列で入場



図 7-2 入口で手指消毒の実施



図 7-3 動画鑑賞の様子



図 7-4 ダンス部による対面発表



図 7-5 中国武術部による対面発表



図 7-6 書道部による映像発表



図 7-7 体実・文実・ダン実の各長よりお礼と閉会の挨拶

7. 生徒アンケートからみた「だいたい輝鏡祭」

行事終了後、実行委員会が生徒対象にアンケート調査を行った。委員の生徒が集計しまとめたものを、輝鏡祭だよりとして全校生徒にフィードバックした。生徒向けに発行されたものを原文のまま示す（図 8）。グラフ等、一部見づらい部分があるが、ご容赦願いたい。

このように、「代替行事を実施して良かった」と思う生徒が 90% 以上、「クラスの親睦が深まった」と思う生徒が 86% 以上を占めた。加えて、部活動団体にとっては大会やコンクール、文化祭などが中止となる中、発表の機会が設けられたことへの謝意がうかがえた。本番当日の徹底した感染防止対策により、安心して行事に臨めたことも満足度の高さに結びついていると考えられよう。

一方で、動画撮影時にソーシャルディスタンスが必然的に近くなってしまったり、分業して取り組んでいるものの、編集する生徒の負荷が大きすぎたりしたといった声が聞かれた。また、動画提出締切がテスト前であったこともタイトなスケジュールへの不満といった形で表れたといえよう。ルールや表彰システムに不備があったり、クラスによっては動画が上位に選ばれなかったりといった指摘については、実行委員会が運営に手一杯で細部まで想定しきれなかった要因かと思われる。

なお、予選で上位に入らなかった動画も見たいといった声が複数あがったため、後日の HR ですべての動画を鑑賞したことを付け加えておく。

【だいたい輝鏡祭アンケート集計結果】

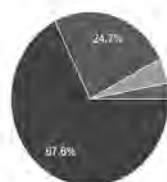
だいたい輝鏡祭から3ヶ月がたちますがお元気でしょうか。

輝鏡祭り最終号はだいたい輝鏡祭のアンケートです。

お忙しいなか御協力ありがとうございました！それでは結果をみていきましょう！！

だいたい輝鏡祭やって良かったと思いますか？

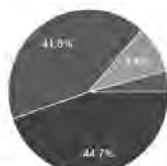
170件の回答



- 思う
- どちらかというと思う
- どちらかというと思わない
- 思わない

クラスの仲は深まったと思いますか？

170件の回答



- 思う
- どちらかというと思う
- どちらかというと思わない
- 思わない

【クラスの動画づくりについて】

・良かったこと

他の人の得意分野を知ることができた/みんなで企画から考えて、撮影・動画までを行ったので、協力しながら、最高のものができた/様々なジャンルの動画を楽しむことが出来た/普段関われない人と関われた

・改善して欲しかったこと

おすすめのアプリなど教えて欲しかった/審査基準などを明確にするべき/編集の人に負担がかかりすぎ/クラス全体でやりたかった/パフォーマンスとお笑いの違いがわからなかった/テスト前はしんどい/クラスCMも何か賞が欲しかった

【感染症対策に関して】

・良かったこと

コロナにかからなかった/対策が明確で安心感があった/アルコールの配布審議用紙に対策を明記すること/少人数グループ/音のなるもので歓声を代用/徹底した検温と消毒/道具の共用の禁止/講堂への誘導

・改善して欲しかったこと

普段の文化祭のルール違反で減点、の規定を感染症にも適用してほしかった/マスク外して撮影の基準もよくわからなかった/少し早くに規定を出してほしかった/動画作りになると必然的に距離が近くなる/義務化

【当日の鑑賞について】

・良かったこと

雰囲気良かった/同級生について知れた/選抜した動画を見る形式だったので、時間もちょうど良かった/表彰などもあり、ワクワク感があった/声を出さなくてもペンライトやペットボトルで盛り上がった/久しぶりに1、2年が集まったこと/徹底された感染症対策

・改善して欲しかったこと

動画がなかったクラスもあった/全員の動画が見たかった/叫びたかった/後ろの方だと動画が見づらい/予選の段階で見たものは新鮮みを感じない/クリスマスソングが大音量/声を出せないなりにもっと盛り上がる工夫が必要だった(ボイス・ペットボトルは配布式など)

【部活の発表について】

・良かったこと

迫力があつた/吹奏楽部の演奏で盛り上がった/発表の場ができたこと/久しぶりに舞台上で嬉しかった/それぞれの部活の活躍の場が新しい形であったこと/部活の状況がわかった

・改善して欲しかったこと

暗転、照明が欲しかった/盛り上がり少なく、少し寂しかった/制作期間の短さ/学校のパソコンの起動が遅く使いづらい/マスクありかどうか当日までわかんなかった/場あたりが短かったこと

コロナ禍で不自由も多かったと思いますが、皆さんに「だいたい輝鏡祭」を楽しんでいただけて心から嬉しいです。これからも頂いた改善点を参考に、より良い行事作りを目指していきます。改めて、ご協力ありがとうございました。

図8 生徒アンケート集計結果（輝鏡祭だより）

8. 教員アンケートからみた「だいたい輝鏡祭」

行事終了後、教員にもアンケート調査を実施し、代替行事の振り返りを行った（内容については一部表現等を改変した部分がある）。

8-1. 実施時期について

- ・ちょうどよい、適切だった。(3)
- ・今年度はやむを得なかったが、9月にやれるとよかった。
- ・せめて11月あたりにできればよかったが、今年は何も行事ができなかったので実施できたことに大きな意義があると思う。
- ・運営に携わっていないが、学校行事のバランスから考えて時期は良かったと思う。
- ・実施時期に関しては、このコロナの状況のなかで何時が適切であったかは難しい判断だった。正直、実施できてよかった。

8-2. 動画の撮影・制作・準備について

- ・無理なく楽しみながら準備していたと思う。
- ・動画の完成版からの感想では、マスクをして撮影をしたり、手持ちの小道具などをつかたりしてうまく取り組んでいたと思う。準備の時間は、例年の行事の前は、放課後や昼休みなどを使って行っているものなので、今年特に負荷がかかっているようにも見えなかったが、動画の編集担当の生徒には負担になっていないか心配。
- ・短期間でよく制作したと思う。ただ、中には既成のCM映像をそのまま使用しているものがあり、著作権に抵触しないか？と思った。3密を避けることが条件だったと思うが、手をつないだり、身体接触したりする場面も多々見られた。ルールを守らなかったグループが上位に選ばれるのは、ルールを守って制作したグループにとって納得がいかないのではないかと思った。
- ・予想以上の出来栄えだった。ただ、他の動画の一部加工や模倣が多かったのが気になった。
- ・動画の撮影に関しては著作権に関する認識が非常に甘いと思った。例えば、アーティストの楽曲使用や、映画の際に流れるCMのパロディなどをみている、どの程度学校側から指導していたかが問われてしまうなどと思った。次年度の文化祭などをこの形式でやる場合は相当気をつけないと、と感じた。審議の際にどの程度「パクリ」や「著作権」「肖像権」に関する部分をきちんとしたのかなと思った（昨年度の文化祭では、パクリのものは、放映を差し止めている）。

8-3. 企画・発表内容について

- ・部門の予選落ちしたグループの動画もぜひ見てみたいと思った。(2)
- ・時間も適当で、内容も生徒の負担になりすぎない感じで良かった。似たような内容も多かったが、初めての代替行事の試みであることを考えれば、十分工夫されていたと思う。
- ・限られた時間で作成したとは思えない、各クラス、工夫を凝らしており、よかつ

た。部活の発表も、字幕で名前がわかるよう工夫があり、悪くないと思った。でも、演奏は生がよい（個人的には）。

- ・アイデアや編集の技術など、立派だと感心した。また、部活動の動画や発表も実現できて本当によかったなどと感動した。
- ・初めての企画だったので、生徒はよくやったと思う。もう少し、上記の著作権内容に関する部分を詰める必要があったかと思った。また、教員の物真似など内輪受けのものはどうなのかと思った。
- ・工夫していた、楽しめた。

8-4. 全体の運営・進行について

- ・予選を行い、本番の数なども適当で進行もスムーズで良かった。(2)
- ・進行はスムーズだった。講堂の着席状況や、動画や発表を鑑賞する態度もよかった。発表は出入りがあるので、後ろの方に発表する子たちが固まっていたのはよかった。
- ・よく準備されていて、スムーズに進行されていたと思う。全体的に早く進んでいて、ちょっと駆け足な印象だったので、もう少し落ち着いて進めてもよかったかなと思った。
- ・無駄な時間が全くなく、よくやったと思う。
- ・スムーズにできていた気がする。
- ・入場などに関しては、よく計画立ててやっていた。

8-5. 感染防止対策について

- ・出来ていたように思う。
- ・指導部の先生のご指導のたまものかと思うが、委員の生徒たちの呼びかけで、感染防止のために努力していたと思う。文化祭の時だけでなく、日々の感染予防にもつながるとよい。
- ・ルールを守って、よく注意されていたと思う。
- ・クラス単位でいる生徒たちは意識が高かったと思うが、部活動座席の私語はかなり気になった。

8-6. その他

- ・著作権上、問題を感じる映像があった。事前に注意を促すとよい。
- ・改めてお茶高生の多才さを実感した。すばらしかった。
- ・感染症対策を講じながらのイベント開催は大変だったと思うが、自分たちの手でやり切ったと経験を持つことができたことは大きかったと思う。指導部としては、生徒たちの正しく美しい欲望?! にしっかりサポートしていきたいと改めて思った。
- ・他校では、オンライン文化祭をやっていたが、今回のイベントの方が生徒たちにとっては盛り上がり良かった気がする。

上記より、全体的に概ね高評価ではあったが、制作した映像作品についてはコンプライアンス遵守の指導を徹底する必要があったことや感染防止対策も行事の一時期だ

けでなく、イベント後も継続していく必要があること等の指摘もみられた。これらは、今後の輝鏡祭運営において反映させていくことが求められよう。

9. まとめ

今年度はコロナ禍で生徒たちにとっては窮屈かつ不自由な学校生活となった。そして、学校に登校し、授業を受け、友だちと一緒に過ごし、行事や部活動に取り組むといった、これまで当たり前だった学校生活がどれだけありがたかったかを痛感させられる契機ともなった。1,2年生のみではあったものの、今年度唯一の輝鏡祭行事を無事実施できたことに安堵するとともに、行事を通じてお茶高生の生き活きた様子を垣間見ることができ、あらためてお茶高には行事が不可欠であると実感させられた。

行事は生徒たちにとって学校生活をよりよく過ごす活力であり、人間性を伸ばさせる大切なアイテムである。来年度は感染防止対策を施しながら、従来行ってきた内容を変えたり、規模を縮小したりすることで3大行事の実施を検討していくことになるだろう。今回の取り組みを活かしつつ、お茶高の新しい行事のスタイルを模索・構築していきたい。

<出典、参考・引用文献>

- 1) お茶の水女子大学附属高等学校学校紹介パンフレット pp.9～10, 12
- 2) 「行事の精選に向けて」 pp.92～95 原野泉 お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要 第58号 2013年6月
- 3) 「お茶の水 第307号」 pp.2 お茶の水女子大学附属高等学校新聞部 2021年3月
- 4) 「会誌 お茶の水 No.133」 pp.56～62 お茶の水女子大学附属高等学校自治会 2021年3月
- 5) 「OCHADAI GAZETTE 第266号」 pp.5～6 お茶の水女子大学学報 2021年4月

だいたい輝鏡祭



だいたい輝鏡祭を実現した実行委員

二〇二〇年十月二十一日、だいたい輝鏡祭が開催された。だいたい輝鏡祭」という名前には、「代」と「天体」というの意味が込められている。「コロナ禍で例年通りの輝鏡祭が出来ないが、輝鏡祭実行委員会が中心となり企画した。

代書家を企画した理由を教えてください。

代書：「元はあれが行事としてやっていたんですけど、今年は感染症の予防のために、五回に分けて、動機を分けて、当日は各クラスのクラスメイトをそれぞれに呼ぶという形にしました。そのほかには、防疫対策として、マスクの着用、消毒の徹底、アルコールの消毒、体温測定などを実施しました。また、代書：「代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」

今回の輝鏡祭では、防疫対策として、マスクの着用、消毒の徹底、アルコールの消毒、体温測定などを実施しました。

また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」

部門	1位	2位
パフォーマンス	1K	2U
お笑い	2U	1K
アート	2R	1R
やってみた	1U	2R

今回の動機について

代書：「代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」

代書：「代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」

実現に際して大変だったこと

代書：「代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」

企画体制を通じて

代書：「代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」

少し教えてもらおう！

代書：「代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。また、代書家は、事前に生徒の意見や要望を聞き取り、アンケートを実施しました。その結果、代書家の企画は、生徒からの支持を得ることができました。」



ステージの上と下に別れて演奏する吹奏楽部

<資料 2-2 > 本校会誌委員会発行「会誌 お茶の水 No. 133」



附属学校園からのお知らせ

～附属高等学校便り～

昨年の2月末に始まった突然の休校措置。そして罹病の緊急事態宣言が出された場からもつ1年がたとうとしています。クラスの仲間との重宝な別れを余儀なくされ、約3か月にもわたる自宅学習を経たお茶園に帰って来た時に感じるのは、友達や先生との再会の喜びと仲間と教室で共に学ぶことの大切さでした。先生が教壇で教えてくださり、クラスメイトが周りにいるという今では決してあたりまえでない学校での学びは、自宅での学習をこなし、いたときの不安や悔いを溶かしてくれました。

コロナ禍における学校生活は自由が制限されたものになりました。マスクの着用や手洗いはもちろん、授業では今まで頻繁に行っていたペアワークやグループワーク、発表の場なども少なくなり、また、が、意識を高く持ちながら生徒間で分らないこと



家で、正直日々退屈い立てられるような気持ちにもなりますが、充実感や達成感で一杯です。



家で、正直日々退屈い立てられるような気持ちにもなりますが、充実感や達成感で一杯です。



附属学校園からのお知らせ

コロナ禍の高校生お茶

奮闘しています!



今まで通り生活することができなくなった反面、新しく生まれたものもありました。お茶園の伝統行事である年度祭(体育祭・文化祭・ダンスコンクール)がすべて中止になってしまった中で、種別祭実行委員会

画した「いたいたい博覧会」が実施されました。いたい、という言葉には「代型」と「大体」の2つの意味が込められており、1・2年の各クラスがグループに分かれてクラスCM、YouTube、パフォーマンス、お笑い、芸術の映像を制作し、12月までの特別授業期間中に最終的に対策をとりながら



作品を鑑賞しました。映像編集の技術力の高さに驚かされた。センスのよさに感嘆。そのほかにも個性が溢れてきた。セッティングのよさに感嘆。そのほかにも個性が溢れてきた。セッティングのよさに感嘆。そのほかにも個性が溢れてきた。セッティングのよさに感嘆。

Time)も始まり、一人でお弁当を食べる少し寂しい暇みもつくつと家となり、生徒/ワグエストの音楽が聴けたりと静やかな時間となっています。

この1年は例年と比べて不自由で我慢を強いられ1年でしたが、その分いろいろいることについて深く考え、新しいものを生み出すとと奮闘するお茶園生のボランタリの高さを肌で実感する1年でもありました。依然として事態の収束がいつかは始まり、2020年の経験を生かし、2021年はより充実した1年を歩りたいです。

お茶の水女子大学附属高等学校 2年 自治会執行委員長 西田 慧